

# 卒業研究(抄録)

テーマ (MS 明朝 12 ポイント、太字、中央揃え)

(1 行アケル)

2180XXXX 姓 名  
指導教員 姓 名

MS 明朝 10.5 ポイント、中央揃え  
姓と名の間は 1 文字あける

(1 行アケル)

※抄録の中には「要旨」は必要ない (平成 29 年より改正)

キーワード: 5 個以内 (MS 明朝 9 ポイント、50 行のみ指定、左寄せ、左右余白 30 mm、上下余白 20mm)

(1 行アケル)

## 1. はじめに (MS 明朝 11 ポイント、太字)

本文 (MS 明朝 9 ポイント、50 行のみ指定、左右・上下余白 20 mm)

(1 行アケル)

## 2. 研究の目的 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

本文 (MS 明朝 9 ポイント)

(1 行アケル)

## 3. 研究の方法 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

### 1) 研究デザイン (MS 明朝 10.5 ポイント、太字)

本文 (MS 明朝 9 ポイント)

(1 行アケル)

### 2) 用語の定義 (必要な場合)

(1 行アケル)

### 3) 研究の対象

(1 行アケル)

### 4) データの収集期間・場所

(1 行アケル)

### 5) データの収集方法

(1 行アケル)

### 6) データの分析方法

(1 行アケル)

## 4. 研究倫理の確保 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

本文 (MS 明朝 9 ポイント)

(1 行アケル)

## 5. 結果 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

### 1) ○○ (MS 明朝 10.5 ポイント、太字)

(1) ○○○○ (MS 明朝 10.5 ポイント、太字)

(2) ○○○○

(1 行アケル)

2) ○○○○○○

(1) ○○○○

(1 行アケナイ)

(2) ○○○○○○

(1 行アケル)

## 6. 考察 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

1) ○○○○○ (MS 明朝 10.5 ポイント、太字)

(1) ○○○ (MS 明朝 10.5 ポイント、太字)

(1 行アケナイ)

(2) ○○○○

(1 行アケル)

2) ○○○○○

(1) ○○○○

(1 行アケナイ)

(2) ○○○○

(1 行アケナイ)

(3) ○○○○

(1 行アケル)

## 7. 結論 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

(1 行アケル)

8. 謝辞 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

(1 行アケル)

9. 文献 (MS 明朝 11 ポイント、太字)

記載の様式は本学紀要に準ずる (MS 明朝 9 ポイント)

1) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

[illegible][illegible]

3) ○○

4) ○○

5) ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

## ※文献リストのあたまを揃える

# 沖縄県離島における Photovoice の試み

2180XXXX 日赤 花子  
指導教員 宗像 太郎

キーワード：Photovoice、住民参加、アクションリサーチ、Needs Assessment

## 1. はじめに

Photovoice は 1996 年にミシガン大学の Wang らによって提唱された参加型アクションリサーチアプローチである<sup>1)</sup>。そのアプローチは、住民が一定のテーマで写真を撮影し、その写真に「ボイス」を付けグループ討議することによって、課題を共有化し、解決方法を住民自らが発見するものである。その目的は、①住民による個人や地域の資源、関心の記録を可能にする、②写真のグループ討議を通じて、批判的対話を高め問題に関する知識を増やす、③政策立案者を動かす、とされており、とくに社会的弱者の社会参加や Needs Assessment の手法としても活用されている。

日本においては、Photovoice についての紹介や実践がほとんど行なわれていない。海外の文献から方法論的検討を行なうとともに、われわれが沖縄県離島において試みている事例を通して、その応用可能性を検討する。

## 2. 研究の目的

沖縄県離島において試みている事例を通して、離島における高齢者の様々なニーズを把握し、住民のコンセンサスを得る方法として Photovoice の Needs Assessment としての応用可能性を検討する。

## 3. 研究の方法

### 1) 研究デザイン

アクションリサーチ

### 2) 用語の定義

本研究においては、Photovoice を「・・・・・・・・・・」と定義した。

### 3) 研究の対象

Photovoice の参加者は、A 県の人口約 5 千人の町の小学校 3 年生以上●●。

### 4) データの収集期間

20XX 年●月～●●月までの期間、A 県の二つの町にて収集した。

### 5) データの収集方法

離島における高齢者の様々なニーズを把握し、住民のコンセンサスを得る方法として、・・・を用いた。

### 6) データの分析方法

・・・・・・・・・・

## 4. 研究倫理の確保

研究参加者を募る際、対象候補者の通学する小学校に・・・・・・・・・・。

## 5. 結果

### 1) Photovoice に関する文献的検討

Photovoice の先駆け（当時は Photo Novella と呼ぶ）となったこの論文において、Wang らは Photo Novella の基盤には Freire 理論を応用したエンパワメント教育、フェミニスト理論、ドキュメンタリー写真術の三つがあることをまず述べている<sup>3)</sup>。

以上、この論文から読み取れる方法的な留意点は①参加者の偏りを避ける、②事前に訓練を行なう、③グループ討議にファシリテーターをおく、④地域の異なる写真も討議する、⑤展示によって“声”をひろげる、である。

## 2) 参加型ヘルスプロモーション

この論文は、中国雲南省でのプロジェクト<sup>4)</sup>を事例に、Photovoiceを参加という視点から検討したものである。Photovoiceの段階別に住民の参加を抜き出すことができる。一般住民の参加するPhotovoiceの段階では、撮影は参加者本人だけでなく、家族や隣人も行なっている。

## 3) 地域での Photovoice の事例検討

### (1) Community Assessment としての Photovoice の試みー高齢者の Needs Assessmentー

各グループのワークショップを通じて、Photovoiceに子どもが参加することの利点として、①子どもが撮影することで警戒感をいだかず、高齢者のありのままの姿が表現できる、②高齢者の生活する様々な場面に入り込むことができる、③低いアングルから環境をとらえることができる、・・・などが考えられた。

### (2) 子どもが参加することの長所・限界・制約

一方、子どもが参加することでの制約として、①子どもの行動圏に限界がある、②肖像権についてのインフォームドコンセントが難しい、③研究上の限定したテーマに合った写真が少ない、④子どもの「ボイス」は解決策に直接にはむすびつかない、などが考えられたので、今後、改善・配慮していく必要がある。

## 6. 考察

### 1) Wang による Photovoice の方法論

Photovoiceについて文献検索した結果、提唱者Wangの関与したものしか見つからなかった。そこで、今まで紹介してきた、Wangの主要論文からその方法論について現段階でのまとめをしておきたい。

### 2) Community Assessment 手法としての評価

#### (1) 質的・定性的な診断

子どもによるPhotovoiceは、Community Assessmentの手法として①子どもが（その多くは）無意識に撮影し写真から参加者が質的なものを抽出することによって・・・・・・・・

#### (2) 参加者の「ボイス」付与

参加者の「ボイス」付与、グループ討議の過程を通じて解決に向けた動機づけがはかれる手法である・・・

## 7. 結論

### 1) Photovoice に関する文献的検討

Photovoiceの先駆け（当時はPhoto Novellaと呼ぶ）となったこの論文において、WangらはPhoto Novellaの基盤にはFreire理論を応用したエンパワーメント教育、フェミニスト理論、ドキュメンタリー写真術の三つがある。

### 2) 参加型ヘルスプロモーションとしての活用

この論文は、中国雲南省でのプロジェクト<sup>4)</sup>を事例に、Photovoiceを参加という視点から検討したものである。Photovoiceの段階別に住民の参加を抜き出すことができる。

## 8. 謝辞

本研究を進めるにあたり、ご指導くださった〇〇教授に感謝いたします。また、本研究に快くご協力くださった方々に厚く御礼を申し上げます。

## 9. 文献

- 1) Wang, C.C., Yuan, Y.L., Feng, M.L.: Photovoice as a tool for participatory evaluation: the community's view of process and impact, *Journal of Contemporary Health*, 4(3): 47-49, 1996.
- 2) 田村やよひ: 看護臨床研修の法制化に寄せて. *日本看護科学会誌* 29(3): 1, 2009.
- 3) Nightingale, F.: *Notes on Hospitals* (3rd ed.). 1863, 薄井坦子訳: 病院覚え書. ナイチンゲール著作集第2巻. 301, 東京, 現代社, 1974.
- 4) 樋口昌彦: コミュニケーション技術への視線: プロセスレコードの社会学的研究. 山中浩司編: 臨床文化の社会学. 京都, 昭和堂, 47-48, 2005.
- 5) 中央教育審議会. “教育進行基本計画についてー「教育立国」の実現に向けて-(答申).” 文部科学省. [http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/08042205.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/08042205.htm), (参照 2017-06-15).